

# 津波から命を守るために

津波から命を守るには、ためらわず避難をすることが大事です。そのためには、どこが安全でどこが危険か、またどこにどのように避難するのかを事前にハザードマップで確認し、津波に関する知識を身につけておくことが大切です。

## ①ハザードマップで事前確認しておこう

### 住んでいる地域の津波の危険性は？

ハザードマップの津波基準水位の色分布を見て、浸水する範囲と深さを確認しましょう。

※基準水位…津波が建物等に衝突した際のせり上がり高さを考慮した盤面からの高さ(水深)

### どこをってどこに避難すればよい？

自宅・学校・職場などからの避難経路・避難目標地点・避難場所を確認し、そこが高い安全な場所であるかも確認しましょう。また、津波の到達が5分程度で襲来する場合もあるため、いち早く避難できる安全な高台も確認しておきましょう。

### 日頃から

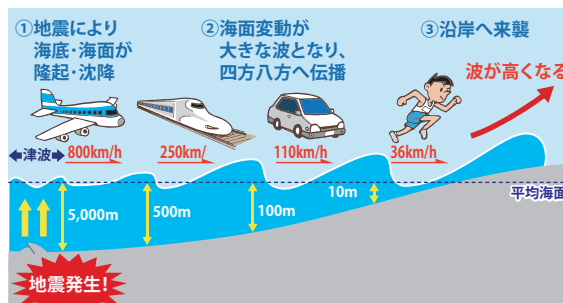
家族や地域、職場で避難方法などについて話し合っておきましょう。また、隣近所などの身近に避難のお手伝いが必要な人が居ないか確認しておきましょう。



## ②津波について知っておこう

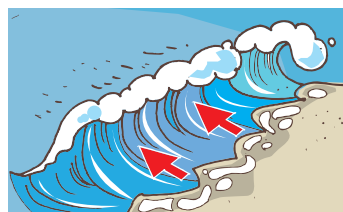
### 津波の速さ

津波の速さは、沖合ではジェット機なみの速さで伝わります。水深が浅くなるにつれて速度は弱まりますが、それでも深さ10mの海岸近くでは、短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人々が走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。実際に津波が見えなくても、迅速に避難することが大事です。



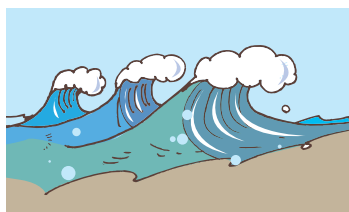
### 押し波と引き波

津波は引き波で始まる場合もあれば、押し波で始まる場合もあります。先に引き波が来た時は、潮が引いて、普段見えない海底が現れたりしますが、それを津波と知らず近寄ると、次に来る押し波にさらわれる危険があります。津波警報が発表されたら迅速に避難することが大事です。



### 繰り返し襲ってくる津波

津波は1回限りではなく、2波、3波と何度も繰り返し来ます。必ずしも第1波が一番高いとは限らず、第2波、第3波あるいは第1波から数時間以上経過してから最大の波が到来することもあるので、津波警報が解除されるまで海岸や河川に近づくことはせず、高台の避難場所にとどまることが大事です。



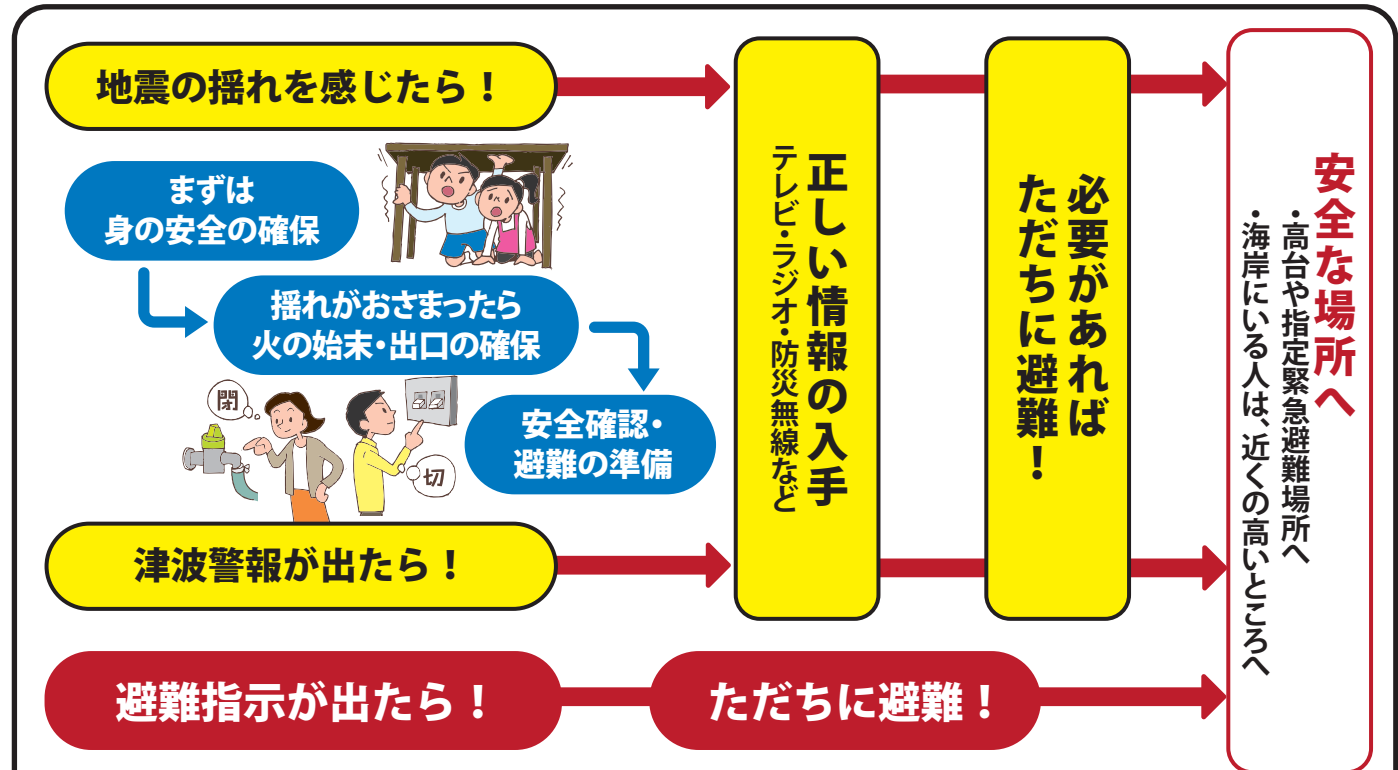
### 津波の高さは50cmでも危険

50cmの津波でも、秒速およそ2mで海底の砂や砂利を巻き上げてやってくると、身体には0.3トンの力が働きます。そうなる前に立ってられずに転倒し、津波と一緒に流されてしまいます。また、基準水位の高さが2mになり、そのときの流速が毎秒4mを超えると、木造住宅ごと流されるおそれがあります。

※基準水位…津波が建物等に衝突した際のせり上がり高さを考慮した盤面からの高さ(水深)



## ③避難行動を知っておこう



### ●避難情報に従いましょう

避難に関する情報を無視するのは、きわめて危険な行為です。必ず従いましょう。

いつでもハザードマップに示された区域が浸水するとは限りません。津波警報が発表されたら、その時その時に合った避難が行えるように備えておきましょう。また、役場が被災する可能性もあるため、避難情報が発令される前に津波が襲来する場合があります。どんな状況でも情報を掴めるようにスマートフォンや携帯ラジオ等を備えておきましょう。



### !津波浸水想定区域内に自宅などがある場合

強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、または弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたら、「すぐに避難」を心がけてください。津波が来るおそれがありますので、揺れがおさまったら電気のブレーカーを落としてすぐに避難を開始しましょう。テレビやラジオの情報を待っていると逃げ遅れることがありますので、避難しながら情報を確認しましょう。



### 東日本大震災の津波避難行動の教訓は…

安全に避難するには**早期避難**が重要

**避難の呼びかけ**や**率先避難**が避難をうながす要因になる

「家族を探す」「忘れ物を取りに自宅へ戻る」などの行動が**避難を妨げる**

車で避難した人の1/3が**渋滞に巻き込まれ被害にあった**

迅速に避難した人は、**津波襲来に対する意識が高い**



これらの教訓をふまえ、日頃の備えや防災訓練を行うことが大事です。